

大阪府泉佐野市における「子どもの第三の居場所」  
コミュニティモデルの運営（2年目）  
2022年度事業報告書

令和5年4月

NPO法人  
麒麟子ども応援団

## Ⅰ 事業計画

### (1) 事業目的

自分の未来に自信をもって踏みだせる人たちであふれた社会の実現を目的とする。

子どもたちを含めた青少年を対象に、ひとりひとりがそれぞれのペースで過ごせる居場所を作り、自分の可能性を信じて主体的に社会に踏みだせるためのさまざまな学習及び体験の機会を提供する。これによって、青少年が「生きる力」を高め、自分の人生に希望と夢を持って社会に参画できるようになることを目指す。

### (2) 目標

1. 2023年3月31日までに一日平均利用児童数を15名にする。
2. ボランティア等の地域住民や行政、学校との関係構築、多世代交流機会を提供する。
3. 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に定期的実施する

### (3) 事業内容

大阪府泉佐野市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

- ・ 期間：2022年4月1日～2023年3月31日（週4日、10時から19時まで開所）
- ・ 場所：大阪府泉佐野市
- ・ 対象：家庭や自身に課題を抱えた小中学生を中心に120名
- ・ 内容：「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで負の社会的相続の解消を補完する。  
また、大人を対象としたプログラムも提供し多世代交流拠点とし、コロナ対策のために空調機を整備する。

## 2 事業実績

### (1) 利用者実績

#### 不登校支援事業（日中）

小学生	中学生	合計
2	12	14

※出席扱い 11名

#### 子ども食堂事業（夕方～）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生	高校生	合計
12	30	13	20	13	20	33	25	166

### (2) 開催実績

#### 不登校支援事業（日中）

平日 10時～16時まで毎日開催 242日

#### 子ども食堂事業（16時～19時）

月	食事支援	食事配布	体験活動	合計	参加者合計
4月	15	0	2	17	198
5月	13	0	3	16	216
6月	14	0	4	18	195
7月	15	0	3	18	197
8月	15	8	2	25	552
9月	15	0	4	19	213
10月	16	0	2	18	198
11月	14	0	1	15	173
12月	16	0	4	20	344
1月	13	4	3	20	405
2月	14	0	8	33	453
3月	15	9	6	30	248
合計	175	12	42	229	3392

### (3) 活動内容

#### ① 不登校支援事業

- ・小学生～高校生を対象に平日毎日10時～16時まで不登校支援事業を実施。
- ・不登校の子どもを持つ保護者を対象とした「親の会」を6回開催。
- ・行政や学校と協議・連携し、希望のあった11名について出席扱い。
- ・学校、保護者、居場所の3者が連携し、子ども達をサポートする体制を構築。
- ・学校に行っていないことにより、多くの体験機会が失われているため、宿泊体験などさまざまな体験事業を実施。



## ②食事支援（こども食堂）

- ・小学生～高校生を対象に175回の食事支援（こども食堂）を実施し、他にもクリスマスイベントや子どもの日イベントなどを実施しました。
- ・コロナウイルス対策として、地域の小学校の子ども達を対象に学年別開催しています。
- ・20名の大人スタッフの他、有志の中学生12名が「お兄ちゃん・お姉ちゃんスタッフ」として運営に参加してくれました。
- ・食事支援ではありますが、食事提供が目的にならないように1対1の関係を重視して、スタッフの声掛けなど居場所創りを意識して実施しました。
- ・2年目を迎え、多くの子ども達の居場所となっており、毎日子ども達で賑わっています。



### ③食事配布

- ・夏休みや冬休みなどの長期休暇においては給食がないため、昼食用のお弁当配布を12回実施いたしました。
- ・地域のお店や企業にご協力いただき、美味しいお弁当を配布いたしました。



#### ④体験活動

##### 1) こどもカフェ Coccha (職業体験)

居場所に通う中学生12名が中心となり、中学生が月1回運営するこどもカフェ Coccha を開催しました。

新型コロナウイルスの影響で、中学校の職業体験は中止となり、体験機会が無くなった子ども達から出てきた希望を実現したものです。子ども達が調理・接客だけではなく、メニュー考案やコスト管理、仕入れの見直しによるコスト削減まで実施しました。

また地域のお店の方に「地域先生」としてお越しいただき、メニュー考案の仕方や積極方法などを教わりました。

こどもカフェ Coccha は、地域の皆様にお越しいただき、世代間の交流機会となりました。

##### 一年間の活動を終えた子ども達のコメント

「最終日はずっとお客様が途切れなくて、接客に集中していて気付いたら閉店時間になっていた。あっという間に時間が経っていて疲れたけど楽しかった。」

「一年間、辛いと思った日もあったけど、取り組もうちにキリンの家で挑戦させてもらっている事は当たり前じゃないことに気付いた。地域のみなさんの応援があり、大人スタッフがいてくれたから貴重な体験をすることが出来た」

「キリンの家で初めてのことをたくさん経験させてもらった。夢を叶えるために自分達でチラシのデザインを考えて地域の方に配布し来客数を増やすことができた。」



## 2) MORIUMIUS（調理体験）

宮城県石巻市にある公益社団法人 MORIUMIUS 様のプログラム全 11 回に参加しました。新型コロナウイルス拡大後、学校での調理体験が無くなった子ども達は初めて持つ出刃包丁を慎重に使って調理していました。

また現地の生産者の方とオンラインで、さまざまな質問をできることを大変楽しみにしておりました。

### 一年間の活動を終えた子ども達のコメント

「初めての経験がいっぱいだった。嫌いな食材も自分で調理することで食べることができるようになった」

「はじめは、知らないことがたくさんだったけど、次回の食材を調べて発表するのが楽しくなった。大人のスタッフの人にたくさん褒めてもらえたことがうれしかった」



### 3) 絵画展の開催

絵を描くことが大好きな子ども達を対象に、現代巨匠絵画展を開催（三日間開催）。

㈱ぼるぷエーアンドアイ様の協力のもと、ピカソやシャガール、東山魁夷といった現代巨匠の絵画と共に子ども達の絵を展示。

特に、課題を抱える子ども達にとって、得意なことで表現する・社会と繋がる機会を提供。

また地域の皆様に活動を知っていただける機会となった。



## Eスポーツ大会



## アスリート（元サッカー日本代表 橋本英郎さん）と宿泊合宿



ポ



クリスマスイベント



### 3 事業総括

#### (1) 事業の成果

- ・2022年4月1日～2023年3月31日までに229回開催し、延べ3392人の子ども達が参加してくれた。そのため、一日平均利用児童数は14.8人とすることができ、目標達成までわずかに届かなかったが多くの子ども達が参加してくれた。
- ・不登校、貧困、孤食、発達特性などさまざまな課題を抱える家庭の子ども達に対して、学校・自宅以外に「第三の居場所」を必要とする子ども達に安心して過ごせる場を提供することができた。
- ・家庭環境や新型コロナウイルスの影響で、多くの体験機会を失った子ども達にさまざまな体験活動を提供することができた。
- ・中学生が運営することもカフェを月に一度開催し、地域住民や行政・学校関係者が多く訪れていただき、子ども第三の居場所が行う体験機会を通して交流機会を提供することができた。
- ・子どもの経験不足を解消するイベントについては、宿泊体験、プロのアスリートとの交流体験、こどもカフェの運営や、プログラミング、MORIUMIUSを通じた食育体験、クラシック音楽のプロの演奏家を招いた鑑賞会など、さまざまな活動を行うことができた。

#### (2) 今後の課題

- ・活動を通して、子ども達の地理的制限が課題として生まれた。コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられることを受け、利用制限を解いていきたいと考えているが、1つの拠点では利用できる子ども達が限られる。

#### (3) 次年度以降の取り組み

- ・2024年3月31日までに一日平均利用児童数を15名(100名/月)にする。
- ・日中利用として毎月20人以上の不登校児童が利用できる場所にする。
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供を行う。
- ・子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に定期的実施する。
- ・参加者の満足度80%以上(参加者アンケートを実施)